母親の自閉的傾向は 18 ヶ月児の攻撃性を高めるか

——大規模出生コホートによる母子ペアデータの検討——

○浅野良輔・土屋賢治

(浜松医科大学子どものこころの発達研究センター)

キーワード：攻撃性、広義自閉症表現型、産後抑うつ症状

Does mothers' broader autism phenotype increase 18-month old infants' aggression?

Ryosuke ASANO, and Kenji J. TSUCHIYA

(Research Center for Child Mental Development, Hamamatsu University School of Medicine)

Key Words: aggression, broader autism phenotype, postpartum depressive symptoms

目 的

乳児は生後 1 歳ころから攻撃性を示し始める (Alink et al., 2006)。乳幼児期における攻撃性は、その後の反社会的行動につながるため (Tremblay, 2010)、乳児の攻撃性を発露させるリスク・ファクターやそのメカニズムの解明は重要である。

乳児の攻撃性を高める要因として、母親の広義自閉症表現型がある。広義自閉症表現型とは、自閉症スペクトラム障害には至らないが、質的に類似した行動・認知傾向を指す (Piven et al., 1997)。母体の中で伝達された広義自閉症表現型によって、乳児は母親と同様の心理プロセスを示すと考えられる。また、広義自閉症表現型をもつ母親は、対人コミュニケーションの失敗といった社会的不適応だけでなく、産後抑うつや不安障害といった心理的不適応にも陥りやすい (Asano et al., submitted; Piven & Palmer, 1999)。産後抑うつを発症した母親は、子どもに対して十分な母乳を与えない、あるいは適切な睡眠パターンを享受させないといった養育行動の問題を呈しやすい (Field, 2010)。さらに、母親の抑うつが子どもの外在化問題行動をうながすことも知られている (Baker et al., 2011)。以上より、母親の広義自閉症表現型は、母親の産後抑うつ症状を媒介して乳児の攻撃性を高めるという仮説を設定することができる。この仮説を検証するため、本研究では、静岡県浜松市で行われている大規模出生コホート研究に基づき、18 ヶ月児の攻撃性発露メカニズムについて検討した。

方 法

対象者 浜松母と子の出生コホート (Hamamatsu Birth Cohort) に参加している母親 769 名 (平均 31.1±5.01 歳) と、その月齢 18 ヶ月の子供 (女児 343 名、男児 336 名) を対象とした。HBC では、浜松医科大学医学部付属病院に訪れた全妊婦に面接や児の発達検査を依頼し、それらを妊娠中と産後 11 回行っている。フォローアップ率は 92% と高く、サンプルは日本の平均世帯属性と等質である (Tsuchiya et al., 2010)。

測定内容 妊娠中：広義自閉症表現型 母親との面接の際に、広義表現型自閉症状尺度 (the Broader Phenotype Autism Symptoms Scale) を用いて評価した (11 項目, $\omega = .54$; Dawson et al., 2007)。産後 1 ヶ月：産後抑うつ症状 自己評定によって、エディンバラ産後うつ病尺度 (the Edinburgh Postnatal

Depression Scale) を用いて測定した (10 項目 4 件法, $\omega = .90$; Cox & Holden, 2003)。産後 18 ヶ月：攻撃性 児の発達検査の際に、カーディフ式乳児攻撃性尺度 (the Cardiff Infant Contentiousness Scale) を用いて評価した (4 項目 3 件法, $\omega = .65$; Hay et al., 2010)。統制変数 母親の産後抑うつ症状や乳児の攻撃性に影響しうる要因として、母親の年齢、パートナーの年齢、母親の教育歴、パートナーの教育歴、婚姻状況、世帯年収、母親の精神障害既往歴、子どもの性別を統制した。

結果と考察

母親の広義自閉症表現型と乳児の攻撃性との関連 母親の広義自閉症表現型が 18 ヶ月児の攻撃性に与える直接的な影響を検討するため、階層的重回帰分析を行った。基準変数は乳児の攻撃性であり、Step 1 では上述した 8 つの統制変数を投入し、Step 2 で統制変数と母親の広義自閉症表現型を投入した。その結果、Step 1 から Step 2 にかけて説明率がわずかではあるが上昇しており ($\Delta R^2 = .009, p < .001$)、母親の広義自閉症表現型は乳児の攻撃性に対して正の影響を与えていた ($B = 0.091, SE = 0.035, p = .009$)。

母親の産後抑うつ症状による媒介プロセス 母親の広義自閉症表現型と乳児の攻撃性との関連が、母親の産後抑うつ症状によって説明されるかどうかを検討するため、構造方程式モデリングの枠組みで媒介分析を行った。8 つの統制変数もすべて投入した。Bootstrap 法 (Preacher & Hays, 2008) による推定の結果、母親の広義自閉症表現型は、母親の産後抑うつ症状を高め、その母親の産後抑うつ症状が乳児の攻撃性を高めるという間接パスが認められた ($B = 0.013, SE = 0.007, 95\% CI [0.002, 0.031]; Figure 1$)。ただし、母親の産後抑うつ症状を投入した後も、母親の広義自閉症表現型と乳児の攻撃性との直接パスが依然みられ、母親の広義自閉症表現型は、直接および間接的に乳児の攻撃性を高めることが示された。

本研究の意義として、以下の 2 つが挙げられる。第 1 に、母親の行動傾向が乳児の攻撃性につながるという一連のプロセスは、疫学データに基づいた知見であり、日本の一般人口を反映した高い代表性をもっている。第 2 に、母親への行動観察を通して、母親が産後抑うつ症状を呈したり、子どもが攻撃性を発現したりするリスクを出生前に同定し、その予防的介入を行う実証的根拠として位置づけることができる。

Figure 1 構造方程式モデリングによる分析結果 ($N = 769$). カッコ内は標準誤差。統制変数の表記は省略。* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$)